

魚を増やす

## イイダコの赤ちゃんを放流（2023）

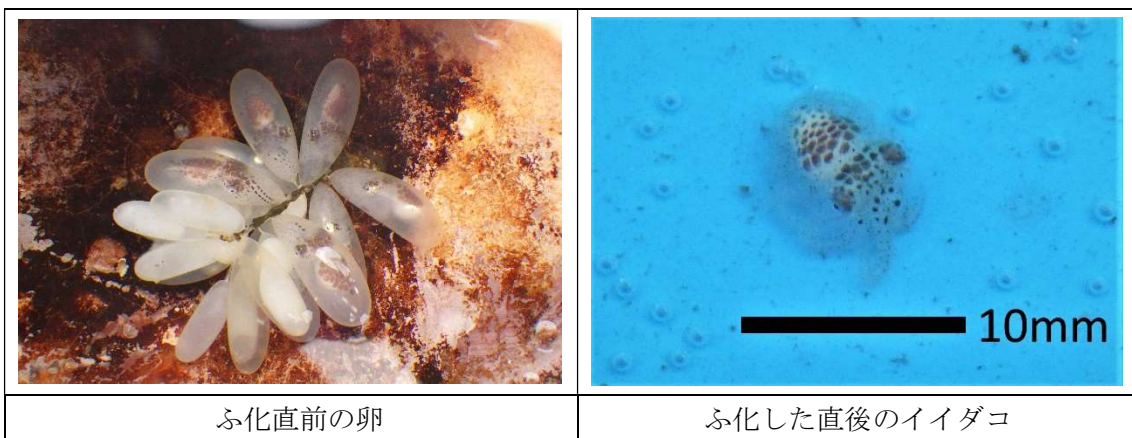


令和5年7月20日のトピックスで、イイダコの卵（親イイダコと卵が入ったアカニシ等の貝殻）を放流したことを報告しました。

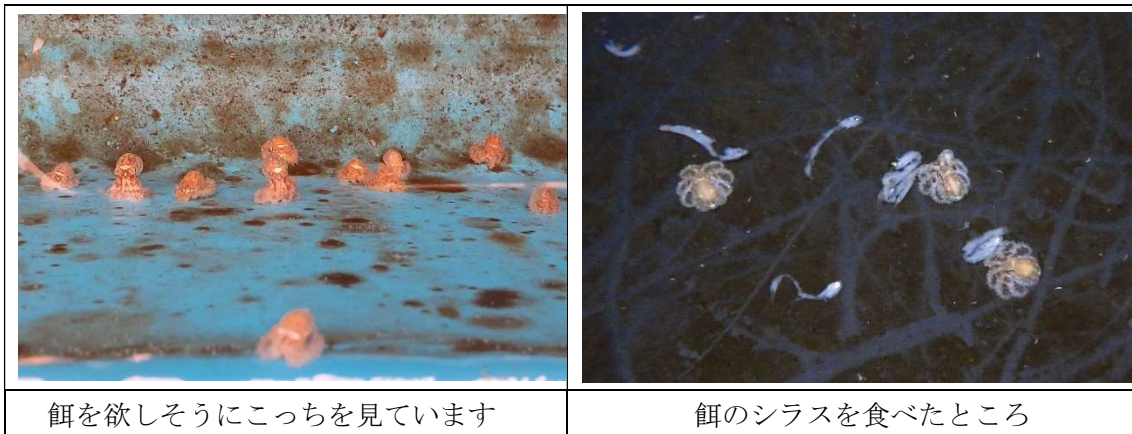
水産試験場では、親イイダコと卵が入った貝殻を一部残して飼育を継続し、卵からイイダコをふ化させる試験を行いました。5月30日に最初の方化を確認し、その後約1か月方化が続きました。

方化してすぐのイイダコは、すでに親と同じような「タコらしい」姿をしており、方化から2日後には餌をとらえて食べるようになります。餌不足で共食いや脱走などが起きないように、小型のエビやシラス、魚肉を刻んだものなどを与えて大切に育てました。

### ○イイダコの方化



○イイダコの飼育



7月上旬になり、始めの方にふ化したイイダコの外套膜長が 15 mmを越え、腕を広げるとペットボトルのフタと同じくらいになりましたので、令和5年7月11日に庵治漁業協同組合底曳網部会の協力を得て、イイダコ 1,000 個体を庵治町地先に放流しました。

大きいサイズの外套膜長は約 16 mm (1.58g) で小さいサイズは約 5 mm (0.07g) でした。

○放流の様子



なるべく海底に近いところで放流できるよう、海底で反転する網を使用しました。自分の力で天然の餌を獲れるようになって、ぐんぐんと成長してほしいものです。

(文責 主席研究員 中山博志)